

# 学校等欠席者・感染症情報システムの

## 過去データのスリム化に関するアンケート調査 結果報告書

平成29年8月21日

公益財団法人 日本学校保健会

学校等欠席者・感染症情報システム運営委員会

### 方法

5月8日～5月31日の期間、学校等欠席者・感染症情報システムのログインページにおいて利用者に対して本アンケートの実施について周知を行った上で、日本学校保健会のポータルサイト上で、ウェブ入力によって情報収集を行った。

一部の質問については、2017年4月1日段階で丸5年を超える過去データを持つ利用者（2011年度までにシステムを導入）と、それ以外の利用者（2012年度以降にシステムを導入）に分けて集計を行った。

注：平成29年4月より、学校欠席者情報収集システムは、学校等欠席者・感染症情報システムと名称を変更している。本報告書においては、これらを「システム」と表記する。

### 結果

#### 第一部：回答者の背景

システムの導入時期別・所属組織別の回答者数（単位：人）

区分	学校	保育所	こども園	行政	医療関係	不明	人数
2011年度までの導入	177	18	4	29	1	1	230
2012年度以降の導入	365	107	13	29	1	3	518
無回答	4	0	1	0	0	0	5
計	546	125	18	58	2	4	753

注）学校には、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特殊学校を含む。行政には、保育部局、保健部局、教育委員会等を含む。

## 第二部：2011年度までの導入 230名についての集計

質問1. 2012年3月31日より前のデータを昨年度（平成28年4月～平成29年3月）中に利用されることがありましたか？（単位：人）

区分	人数
あり	20
なし	210
無回答	0
計	230

ありと答えた20名の所属は、学校13名、行政6名、医療関係1名であった。

質問2. 以下のそれぞれの項目について、2012年3月31日より前のデータについての、昨年度の利用頻度と利用した機能を記載してください。（質問1で「あり」と答えた20名について結果を提示する）

1) 利用頻度について（単位：人）

利用頻度	項目			
	「地域の状況」(「出席停止の状況」、「罹患率グラフ」)	「参照」	「臨時休業印刷」	「インフルエンザ確認」
週1回程度利用	2	0	0	1
月1回程度利用	2	3	1	3
年1回程度利用	5	4	3	1
不定期利用	11	11	6	13
利用しなかった	0	2	10	2
計	20	20	20	20

2) 使用した機能

「地域の状況」について利用した機能は、「出席停止の状況」は、Web上での確認のみが13名、CSVが7名であり、「罹患率グラフ」は、Web上での確認のみが11名、CSVが5名、未回答が4名であった。「参照」の利用した機能については、Web上での確認のみが14名、CSVが3名であった。「臨時休業印刷」の利用した機能は、Web上での確認のみが9名、PDF出力が1名であった。「インフルエンザ確認」の利用した機能については、Web上での確認のみが9名、インフルエンザ欠席状況一覧CSV(集計・学校別)が5名、日報CSV(出席停止情報)が3名、日報CSV(学校閉鎖情報)が1名であった。

質問3. 2012年3月31日より前のデータについて、昨年度、利用されなかった理由をあげてください。

(質問1で「なし」と答えた210名について結果を提示する) (単位:人)

理由	人数
使いたいと思ったが、使い方がわからなかった	30
使いたいと思ったが、その機能がなかった	5
たまたま昨年度は使わなかったが過去には使ったことがある	16
その他	152
無回答	7

注)「その他」の多くは、使う必要がなかった(直近のデータのみを使用することで十分と考えているなど)、使う機会がなかった、使うことに思いが至らなかったなどと回答していた。

質問4. 今後、過去5年以上前のデータを使うことを予定されている場合は、その具体的な内容とその見込みの頻度を以下に記載ください。(2011年度までの導入230名についての集計)

1) 利用頻度について (単位:人)

利用頻度	項目			
	「地域の状況」(「出席停止の状況」、「罹患率グラフ」)	「参照」	「臨時休業印刷」	「インフルエンザ確認」
週1回程度利用	3	4	0	8
月1回程度利用	11	6	4	9
年1回程度利用	26	28	20	23
不定期利用	86	78	81	85
未回答	104	114	125	105
計	230	230	230	230

2) 利用した機能

「地域の状況」について利用したい機能は、「出席停止の状況」は、Web 上での確認のみが 84 名、CSV が 33 名であり、「罹患率グラフ」は、Web 上での確認のみが 84 名、CSV が 29 名であった。「参照」の利用したい機能は、Web 上での確認のみが 80 名、CSV が 25 名であった。「臨時休業印刷」の利用したい機能は、Web 上での確認のみが 64 名、PDF 出力が 23 名、週報作成 5 名であった。「インフルエンザ確認」の利用したい機能は、Web 上での確認のみが 63 名、インフルエンザ欠席状況一覧 CSV(集計・学校別)が 44 名、日報 CSV (学校閉鎖情報) が 10 名、日報 CSV (出席停止情報) が 5 名、であった。

### 第三部：2012 年度以降の導入 518 名についての集計

質問 4. 今後、過去 5 年以上前のデータを使うことを予定されている場合は、その具体的な内容とその見込みの頻度を以下に記載ください。

#### 1) 利用頻度について (単位：人)

利用頻度	項目			
	「地域の状況」(「出席停止の状況」、「罹患率グラフ」)	「参照」	「臨時休業印刷」	「インフルエンザ確認」
週1回程度利用	16	12	2	21
月1回程度利用	13	9	10	16
年1回程度利用	65	47	45	48
不定期利用	222	222	210	236
未回答	202	228	251	197
計	518	518	518	518

#### 2) 利用したい機能について

「地域の状況」について利用したい機能は、「出席停止の状況」は、Web 上での確認のみが 237 名、CSV が 49 名であり、「罹患率グラフ」は、Web 上での確認のみが 229 名、CSV が 49 名であった。「参照」の利用したい機能は、Web 上での確認のみが 205 名、CSV が 40 名であった。「臨時休業印刷」の利用したい機能は、Web 上での確認のみが 147 名、PDF 出力が 79 名、週報作成 12 名であった。「インフルエンザ確認」の利用したい機能は、Web 上での確認のみが 169 名、インフルエンザ欠席状況一覧 CSV(集計・学校別)が 100 名、日報 CSV (出席停止情報) が 20 名、日報 CSV (学校閉鎖情報) が 12 名であった。

## 第四部：すべての回答者についての集計

質問 5. 過去データについて、現行のシステムでは実施できない有用な解析・出力法のアイデアがある方は、以下に記載ください。

有意な回答なし

質問 6. 過去データをシステム上で随時閲覧できる期間について、最低限必要と考える期間を以下に一つチェックしてください。（単位：人）

期間	人数
最低 1 年	153
最低 2 年	94
最低 3 年	243
最低 5 年	191
それ以外*	35
無回答	37
計	753

\*それ以外：10 年（10 名）、6 年（4 名）、5 年（1 名）、4 年（1 名）、1 年（1 名）、1 か月（1 名）等

## 考察

---

### 丸 5 年を超える過去データの利用について

2011 年度までの導入の解析対象者（230 名）のうち、丸 5 年を超える過去データを昨年度 1 年間で利用したと回答したのは、20 名（8.7%）のみであった。この 20 名のほとんどが、頻度に若干の差はあったが「地域の状況」、「参照」、「インフルエンザ確認」を利用していた。なかでも、「地域の状況」については、定期的に利用している（週 1 回、月 1 回、年 1 回程度の合算）と答えたのが、9 名（20 名のうち 45%）であったのは興味深い結果であった。一方、「臨時休業印刷」は半数のみの利用であり、学校現場等の実務の現状に沿ったものであると考えられる。また、機能としては、いずれの項目についても、Web 上での閲覧のみと回答したものが多く、システムの出力系の利便性については一定の評価がなされていると考えられる。

また、所属については、回答した 29 名の行政担当者のうち 6 名が（うち 2 名は同一自治体）、昨年度、丸 5 年を超える過去データの利用をしていた。

2011 年度までの導入の解析対象者のうち、丸 5 年を超える過去データを昨年度 1 年間で利用しなかった理由については、その多くが、「使う必要性がなかった」と自由記載欄に記載していた。「使いたいと思ったが、その機能がなかった」と回答している 5 名については、詳細の情報が得られなかった。30 名が「使いたいと思ったが、使い方がわからなかった」と回答しており、利用方法のマニュアルの改善などを検討する必要がある。

今後、一つ以上の項目について、丸 5 年を超える過去データを使うことを予定していると回答した者において、項目別の頻度の傾向に大きな差がなかったことから、具体的な利用法のイメージが描けていない可能性もあると考えた。

## 過去データをシステム上で随時閲覧できる期間について

システム上で随時閲覧できる期間については、最低 1 年と回答したものが、154 名（その他の自由記載に 1 年と回答した 1 名を含める）と全回答数の 20.5% を占め、最低 1 年～3 年の合計で 491 名（65.2%）、最低 1 年～5 年の合計で 684 名（その他の自由記載に 4 年、5 年と回答のあった計 2 名を含める）90.8% という結果であった。

現状において、すべてのデータが施設単位、もしくは地域単位で、CSV でダウンロードすることができ、利用者の立場での任意の解析に供することができる。今後、一定期間を超えるデータがシステム上で随時閲覧できなくなったとしても、データをダウンロードしておく限り、現状通り、CSV を用いた解析は可能である。ただし、現状では、Web 上のみで閲覧している利用者も多く、CSV を用いた長期的な時間的・空間的なトレンドの解析について、その有用性について検討を進めるとともに、適宜、解析方法について利用者に周知していく必要がある。